

日出町まちづくり協力隊新聞

5月23日(月)

日出町真那井の桜川のホタルを見に行ってきました。これは現実の世界なの？と目を疑うほどの美しい景色。こんなにたくさんホタルを見たのは生まれてはじめてでした。

今年、5月1日から現れ始め、今約二千匹のホタルが飛び交いピークを迎えています。あと10日くらいではないかというお話でした。雨の降る前の、蒸せかえるような、土と木々のにおいと、夜中に響くカエルの鳴き声。

美しいひじの里山風景

真那井のホタル



真つ暗な約1kmにわたって続く田んぼの畦道を歩いてみると、ほのかな命の灯りに包まれて異世界に迷い込んだかのようです。

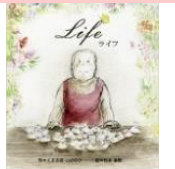
「ホタルがとまったかい？」このホタルは美人にしかとまらんのだよ。案内や交通誘導をしてくれる。見守る会のおじちゃんたちが楽しませてくれます。お祭りは6月5日(日)です。

ぜひ、桜川のホタルに会いに行ってみて下さい。ホタル募金にもどうぞご協力下さい。



発行 2016年 水無月  
発行人 日出町まちづくり協力隊  
住所 〒879-1592 大分県速見郡日出町2974-1 日出町役場 (政策推進課)  
TEL 73-3116

小説 Café LIFE



この本は、お客さまがお店の記念日にと、プレゼントしてくれたのだそう。「町のはずれにある小さなお店には、だれかが働いているわけでも、なにかを売っているわけでもなくて...」

人とは開わりの中で生きていることを温かく優しく伝えてくれるこの絵本と、現実のこのお店とが、どこか繋がっているような...そんな気がしてしばらくその絵本を眺めていた。



(松澤京子)

上城博士のお魚談義

お魚博士こと、上城博士の助手としてお魚教室の司会を担当しました。老若男女、大人から小さな子供まで一緒になってクイズ大会！「城下かれいの特徴のひとつ、目と目の間には何がある!?」「お殿様へ献上品とされていた頃、いったいどうやって江戸まで運ばれていたのでしょうか？」等など、難しい質問にも元気いっばいに手を挙げて答えてくれました。いくらの親は誰でしょうという質問には、「サーモン!!」会場の笑いを誘い、温かい雰囲気でした。

第31回 城下かれい祭り ミニアルバム

5月14日(土)15日(日)両日も大盛況！日出城址周辺と日出漁港会場は、約5万人の来場者でにぎわいました。



稚魚の放流「大きく育ってね」

おせたい日記 4月27日(水)



しとしと雨が上がりかけた午後15時頃...。町の中から、袋を片手に持った子どもたちの元気な声が聞こえてきます。そう、今日は「お接待の日」です。



偶然、役場の前で、大きな袋を持った日出小学校の子たちに出会いました。「仲間にいれてもらっていい?」「いいよ!」子ども目線で、はじめてのおせたい体験。「お母さんどうぞ」と言われながら...私までスママセン。

地図もないのに次から次へと走り回ること、走り回ること！赤い旗が目印。旗が見えた瞬間の加速がすごい。「きょんちゃんも早く!!」いつの間にもやもうお友達です。



仲間思い、まだ行ってないところに行っておあげようよ、なんて優しいことも言うてくれました。

みんなは、途中で出会う友達との情報交換もしっかりしています。「ここアイスやで!」

ちゃんとお母さんから教えられているのです。一軒一軒、お費銭をして、ちゃんと手を合わせます。「二個好きな持っていきよ」

※お接待とは、一般に、弘法大師を信仰する人々が、毎年旧暦の3月と7月の21日に大師の像をまつり、近所の人や子供たちを招いてお菓子やお餅などをふるまう風習です。

陽己くん、征也くん、蒼空くん、色んなことを教えてくれてありがとう！きょんちゃんより



城下かれいキャンペーン実施中です！2016年5月20日(金)~7月15日(金)

城下かれい料理を食べて、お土産を買って、華麗(かれい)なる賞品を当てちゃって下さい！うれしい感想付きのみなさまからのお葉書が続々と届いています。ぜひこの機会に!!

4月27日は私(協力隊桑原)が日出町に引越してきて初めてのおせつたい。「誰が」「どこで」「何時頃から」行うものなのかサッパリわからない私は朝からソワソワキョロキョロ。しかし、降り続く雨はお屋前にはかなりの大雨に。「さすがの子供たちもこの雨では出てこないのでは？」と心配になってきました。

役場でいろいろな人たちに聞いてみると、どうやら小学生の下校時刻頃に合せて始めるお宅が多いとのこと、私も午後一番に傘をさして役場を飛び出すことにしました。とはいえ、まずどこに向かえばいいのかわからないので、役場の広報担当に同行させてもらって歩いて歩くことになりました。なるほど、おせつたいをされていられるお宅は赤い旗をあげているんですね！。最初に取材させていただいたお宅では子供たちが喜びそうなお菓子やジュースを綺麗に並べていて元子供の私も一気にテンションアップ。お話を伺ったり写真を撮ったりしていると次々に子供たちがやってき



## 今年のおせつたいは残念な雨模様



見ていると、きちんと手を合わせてお賽銭を入れ、お菓子をいただいたら行儀よく「ありがとうございます」なんとも心温まる光景でした。「お菓子をくれないとイタズラしちゃうぞ！」というどこかの国の行事よりも「ずっとイイ！」と私は思います。その後6、7軒のお宅にお伺いし様々な表情のおこぼれにお参りさせていただきました。きまじいながらも、帰りのポケットがお菓子でいっぱいになっていったのは内緒です。

インターネットで調べたところ、大分県内のおせつたいは姿を消しつつあり、知らない世代が増えて「消えゆく伝統行事」と言われているそうです。準備する手間を考えるとおせつたいされる方々の苦勞は想像できますが必ず残ってほしい伝統行事の一つだと思えます。

私にも何か少しでも出来ることがあるのかと考えています。



## 第31回城下かかれい祭り (協力隊 桑原目線)

楽しみにしていた今年の城下かかれい祭り、私に与えられたお仕事は初日(5月14日)の本部のお手伝い、2日目(5月15日)は日出漁港で行われる『お魚つかみどり』の司会進行という大役でした。お魚つかみどりは毎年大人気のイベントで抽選倍率が2倍を超すと聞いて、その責任の重さにすっかり緊張。魚の種類も詳しくないし魚をつかむこともできないのに大丈夫でしょうか!? そもそも城下かかれい祭り自体初めての経験で、どのくらいの規模のお祭りなのかよくわかっていませんけど? しかし、周囲の人たちの「大丈夫だよ」「よろしくね」「頑張って」という優しくも強引な言葉に背中を押されていよいよ当日を迎えました。お祭りは両日とも好天に恵まれて、日出漁港で行われた漁船遊覧ツアーや、採り立ての魚を使ったりゆきゅう丼が食べられる漁師の味ひろばも大人気でした。漁師さんたちは前日夜中から祭り用の漁に出て当日には会場の準備をして事故がないようにと気を配り、魚をしめたりさばいたりと本当に大変だったと思います。そこに私のような何も知らない素人がお手伝いと呼びやってくるまで余計な手間をかけさせるわけですからますます苦勞が絶えなかったと想像できますが・・・

さて、肝心のお魚つかみどりはどうだったかというところ、午前の部、午後の部ともに抽選倍率は3倍前後、当選発表会場では「どうしてもやりたいよー!」と泣き叫ぶ落選者(小学生)、「魚怖いよーやりたくないよー!」と泣き叫ぶ当選者(お母さんの期待を背負う小学生)と様々。



それを目の当たりにした私は多少複雑な気分で行役のマイクを握りましたが、漁師さんたちのサポートのおかげでとどろくも大きなミスもなく無事に仕事を遂行することができました。楽しい2日間を過ごさせていただいたことを心から感謝します。



お魚つかみどり盛り上がってます!



**募集中!** 『日出町に移住したい方が待っています』  
空き家バンクに登録しませんか?  
空き家を貸したい方、売りたい方はご相談下さい

お問い合わせ先: 政策推進課 一宮・姫野  
0977-173-3116